

# 第36回 社会言語科学学会大会

Program of the 36th Biannual Meeting of the Japanese Association of Sociolinguistic Sciences

日時 **2015.9.5(土)~6(日)** 場所 **京都教育大学** (後援・申請中)  
 〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1番地

**交通** ①JR奈良線 JR藤森駅下車 徒歩約3分/②京阪本線 墨染駅下車 徒歩約7分  
**参加費** (大会論文集1冊込) 会員:3,000円/非会員:5,000円/学生会員:2,000円/学生非会員:4,000円 [事前申込み(割引)の期限等につきましてはホームページをご覧ください]  
**お問い合わせ先** 社会言語科学学会研究大会委員会 E-mail: jass-desk@bunken.co.jp http://www.jass.ne.jp/another/?page\_id=2

9月5日(土)			
9:30	受付開始〔1号館A棟2F A1講義室〕		
10:00	開会		
10:00 - 10:30	研究発表(口頭発表)	<セッション1>〔1号館B棟2F B2講義室〕 司会:榎本 剛士(金沢大学) 死者に語り掛けるスピーチとはどのようなものか—弔辞における故人の呼称に着目して— 利岡 真帆(関西大学)	<セッション2>〔1号館C棟2F C6講義室〕 司会:大場 美和子(昭和女子大学) “おネエ”のキャラクタの言語行動—ジェンダーを演出する資源のクロスジェンダー的使用— 河野 礼実(お茶の水女子大学)
		<セッション3>〔1号館C棟1F C3講義室〕 司会:嶋 ちはる(国際教養大学) 生活者の日本語コミュニケーション力とその要因を探る—中国語母語話者の対面コミュニケーション力の測定結果から— 小川 珠子(中国帰国者定着促進センター), 安場 淳(中国帰国者定着促進センター)	
		和式旅館における観光接触場面のインターアクション—観光接触場面での接遇と日本語の役割— 加藤 好崇(東海大学), 宇佐美 まゆみ(東京外国語大学)	日本生育外国人児童の作文力の発達に関する調査研究—「産出量・文の複雑さ・内容」の分析を通して— 齋藤 ひろみ(東京学芸大学), 菅原 雅枝(東京学芸大学), 嶋田 陽子(日米会話学院), 西島 道(東京学芸大学), 工藤 聖子(東京学芸大学), 李 佳耀(東京学芸大学)
10:35 - 11:05		わかりやすい公共サインのあり方を考える 本田 弘之(北陸先端科学技術大学院大学), 岩田 一成(聖心女子大学), 倉林 秀男(杏林大学)	謙譲語「〜テオリマス」に指標される職務遂行モード—サービス業従事者へのインタビューデータから— 延与 由美子(北海道大学)
11:10 - 11:40		文法性判断の社会言語学—社会統語論の目論見— 吉川 正人(慶應義塾大学)	留学における語用論的能力の習得—発話行為を含むインターアクションの変化— 深澤 英美(上智大学)
13:00 - 13:05	開催校ご挨拶〔1号館C棟2F 大講義室1〕		
13:10 - 14:40	招待講演	講演題目:グローバル社会へのウェルフェアリングイスティックスとしての場の理論—解放的語用論への挑戦— 〔1号館C棟2F 大講義室1〕 講演者:井出 祥子(日本女子大学名誉教授)/司会:渋谷 勝己(大阪大学)	
14:45 - 15:30	総会・大会発表賞授賞式〔1号館C棟2F 大講義室1〕		
15:45 - 18:15	ワークショップ	<ワークショップ1>〔1号館B棟2F B2講義室〕 発語・ジェスチャー・物理的環境の包括的記述に向けて—会話分析の可能性と課題— 企画責任者:杉浦 秀行(茨城大学) 参加者:黒嶋 智美(日本学術振興会), 城 綾美(京都大学), 牧野 遼作(総合研究大学院大学), Paul Cibulka (University of Gothenburg)	<ワークショップ2>〔1号館C棟2F C6講義室〕 ウェルフェア・リングイスティックスと調査研究—現場性・実践性という観点から— 企画責任者:野山 広(国立国語研究所) 参加者:杉澤 経子(東京外国語大学), 吉富 志津代(大阪大学), 石崎 雅人(東京大学), 花崎 攝(演劇デザインギルド)
		<ワークショップ3>〔1号館C棟1F C3講義室〕 応用言語学から利害関係へのアプローチ—制度的場面における第二言語使用— 企画責任者:古川 敏明(大妻女子大学) 参加者:岡田 悠佑(大阪大学), 小川 洋介(関西大学)	
18:30 -	懇親会〔大学会館(生協食堂)〕		

9月6日(日)					
9:30	受付開始〔1号館A棟2F A1講義室〕				
10:00 - 10:30	研究発表(口頭発表)	<セッション4>〔1号館B棟2F B2講義室〕 司会:杉浦 秀行(茨城大学) Managing Interactional Tasks in an English Discussion Seminar 八木 淳一(大阪大学)	<セッション5>〔1号館C棟2F C6講義室〕 司会:岡田 祥平(新潟大学) 指示詞型フィラーの用法についての日中対照—日本語「あのー」と中国語「那个 nage」の機能をめぐって— 葛 欣燕(九州大学)		
		<セッション6>〔1号館C棟2F 大講義室1〕 司会:安井 永子(名古屋大学) 会話中の演技の連鎖構造—「設定」について話すことと「演技」をすること— 白田 泰如(京都大学・日本学術振興会)	<セッション7>〔1号館C棟1F C3講義室〕 司会:建石 始(神戸学院大学) 政治談話における修辞構造分析—安倍晋三総理大臣の再執権後の談話構成を中心に— 韓 娥凜(大阪大学)		
		英語教師が用いる談話標識の機能について—BTSJを用いた教室談話分析から— 石野 未架(大阪大学)	文副詞「やはり」の配慮表現としての側面に関する考察 沼里 聡(首都大学東京)	会話の分裂を巡る投機的な発話と活動の分岐—音声会話の場の変容に関する事例分析— 名塩 征史(静岡大学)	1990年前後の新聞の皇室敬語—「崩御」と「ご逝去」の差はどこからきたか— 杉森(秋本) 典子(カラマズー大学)
		生徒の語用論的能力を育成する上でALTは役に立っているか?—高等学校のALTに対する大規模アンケート調査の結果から— 清水 崇文(上智大学), 豊田 春賀(上智大学), 吉田 麻里子(上智大学)	3人会話における「言い切り形」の談話機能 甲田 直美(東北大学)	会話分析研究におけるマルチモダリティ概念の使用について 平本 毅(京都大学)	滄源ワ族自治県の文字使用状況—無文字から多文字併存へ— 山田 敦士(日本医療大学)
11:10 - 11:40		依頼の談話分析から見るWill系とCan系の語用論的な分業 林 可奈子(神戸市外国語大学)	「発話頭のハ」による近接化の役割—丁寧に接しながら親しげにも接する言語活動に注目して— 宮本 淳子(常葉大学短期大学部)		
11:45 - 12:15			態度表明を表す発話ターン末尾における「なんか」についての考察—同意を得られにくい状況の下で— 呉 青青(九州大学)		
13:15 - 14:30	ポスター発表	司会:坊農 真弓(国立情報学研究所)〔1号館B棟2F B4講義室/1号館B棟2F B5講義室/1号館B棟2F B7講義室〕 P-01 同じ話における共通語彙 加藤 祥(国立国語研究所) P-02 新聞記事における『発達障害』概念の批判的ディスコース分析 宮崎 康支(関西学院大学)			
14:45 - 17:15	ワークショップ	<ワークショップ4>〔1号館B棟2F B2講義室〕 やりとりの中の記号・認知・文化—言語コミュニケーション研究の学際的対話に向けて— 企画責任者:横森 大輔(九州大学) 参加者:遠藤 智子(日本学術振興会・筑波大学), 木本 幸憲(京都大学), 梶丸 岳(京都市立芸術大学), 井出 祥子(日本女子大学)	<ワークショップ5>〔1号館C棟2F C6講義室〕 まちづくりの話し合い学—言語学・社会学からのアプローチ— 企画責任者:村田 和代(龍谷大学) 参加者:森 篤嗣(帝塚山大学), 岡本 雅史(立命館大学), 増田 将伸(京都産業大学), 井関 崇博(兵庫県立大学)		